

〔表紙〕

明治四十四年

日誌

青年寄宿舍

〔内表紙〕

明治四十四年度

日誌

札幌区北五条西九丁目

青年寄宿舍 印〔青年寄宿舍之印〕

一月一日 晴れたれど寒気強し

午前七時、舎生一同雑煮を食して年の改まりたるを祝す。宮部先生、石沢、森、吉川、森本諸氏へ当寄宿舍舎生一同を代表して年賀の名詞を持ち行く。本日は風こそ寒けれど天気晴快にして雲の様、山の景気も昨日に打ち変りて長閑に見ゆ。午後、我等が先輩小野崎浩三君当寄宿舍を訪問せらる。

夕食後舎生一同、図書室に会して、歌留多、トランプ等を遊ぶ。蜜柑の御馳走あり。

一月二日 晴れ、寒けれど甚だしからず。

午後六時、舎生一同宮部先生の宅へ行く。

御馳走を頂戴す。加留多、トランプ、銭廻し等様々遊び、帰舎せるは十二時過ぎなり、大原君帰舎す。

一月三日 晴れ

一月四日 晴れ、珍しき暖気なり、井上米商店より掛曆を貰ふ。

一月五日 晴れ、暖気なり。

一月六日 曇天、吹雪あり、寒気強し

一月七日 曇天、大吹雪あり、寒気強し

一月八日 晴れ、寒からず、六日以来の吹雪も止みたり。

一月九日 晴れ、寒からず。午前五時過ぎ、丹治君帰舎せられ、夕食後、大貫、茜の二君帰舎す。本日より学校始まる。

一月十日 晴れ、寒からず。

一月十一日 晴れ、暖気、本日にて文芸部事務を茜君に引渡す。

一月十二日 近来稀なる暖気なり、ために北海道には珍しき寒中の降雨あり、本日午後、根本君より文芸部委員の事務を引受く。

常務委員左之如く決定

食事委員 管君

衛生委員 小松原君

会計委員 大貫君

文芸委員 茜

一月十三日 夜来の雨風力の加はると共に吹雪と変じ今日の天気は如何と気遣ひしが、昼頃からは快晴となれり、夕食後、明日は大会のこととて横綱以下ピンポン室に出場して稽古に余念なし。

一月十四日 午後二時よりピンポン大会を開催す。顔触れ左之如し。

	東組	西組
	石川君	田口君
	高橋君	丹治君
	茜君	篠塚
	内田君	荒川
	佐藤君	坪坂
小結	野沢君	根本
関脇	大貫君	管
大関	上杉君	小熊
横綱	大原君	丹治

	佐藤
大原君	丹治
	上杉

右中茜、田口君欠場す。丹治君平常八練習をせざれど、君の沈着よく敵を制し得て見事三人を敗りて優退となる。本日の花なり、東組の佐藤君出でて己れ西組の面々来れと呼はり君も三人を敗りて亦優退となり、西組丹治君と相対す。蓋し、自己地位上相当の働きと云ふべし、次に現れ出でたるは、何れも新進小結連なり、何れも組の元気を荷ひ居ることとて奮戦の見事なること当日随一の働き振りと云ふべし、あらゆる人智を尽くせども遂に根本君に敗らる。以後の勝敗は、蓋し適当と云ふべく、只大関上杉君の精神よく西大関を敗りたるは手柄なり、優待の佐藤、丹治、上杉の三君、横綱に向ふ、流石横綱なり、三君を見事槍玉にかけし手、皆魂消る外なし、之れにて本日の大会を終り五時半より委員会を開く、因みに本日八大会後菓子の御馳走ありき。上杉、佐藤、丹治、大

原諸君賞品を受く。

一月十五日 今日日は日曜日なのに晴天と来るから外出する人多く氷滑り行く連中も見受けられたり、内田君、石川君ストーブ故障のため本日から火鉢を使用す。

一月十六日 午前中八快晴なりしも、午後三時から雪降る。

一月十七日 晴れたれども寒気甚だしく、時々吹雪あり、内田、石川両君本日、火鉢を止む。

一月十八日 晴れ、寒気甚だし、神経衰弱のため休校して温泉に静養中なりし上田君、午後七時帰舎、夕食なし。

一月二十日 快晴にして近来稀なる暖気なり、上田君病気のため休学して本日帰国せらる、君心中や如何に、同情して余りたり、大貫君事本日より工藤と改姓す。

一月二十一日 快晴なり、夕食後委員会より娑や交替問題に関して決議す。終りて一同管君の家にて娑やのことに熟議を凝す、散会せるは九時なり。

一月二十二日 朝には雨降りて大寒には思はれず、路の悪きこと限りなし。午後九時から七号室にて舎生大会を開き賄婦問題に関して決議する所あり、其他種々、舎の改良すべき点につき各自意見陳述す、閉会十二時頃なりき。

一月二十五日 暖気なれども降雪あり。

一月二十六日 非常なる暖気なり、時々降雪あり、文芸部にて実業立身伝を購入す。

一月二十七日 空朗かに晴れ渡り頗る暖気なり。

快晴にして寒気寛かなり、午後六時より月次会を開催す。来賓八宮部先生始め石沢様、小田切農学士にて演説八工藤君、篠塚君、大原君、丹治君等にして最後に小田切様の忠孝に関する演説あり、一同感奮す、之れにて月次会を終り、茶菓、蜜柑、林檎等御馳走あり、座談として小田切様の書生当時談あり、抱腹絶倒せしむ、散会せるは、十二時なりき、本日夕食にしるこの御馳走あり。

土木工科一年茨城県人豊嶋憲次君入舎す、但し夕食なし。

一月二十九日 晴天なり、午前十時から一月分決算を行ふ、初めてのことで迷ふこと甚し、正月として八当然の消費なりき、本日午前から札中の第十四回雪戦会開催す。

一時から之を見物す、本年八東宮殿下行啓の砌り写真を奉上するとの事にて大なる雪達磨などの飾物あり、相変らず壮快なること実に北国の美観なり、大原君八此日南軍要塞附武官なり、荒川君八招待係なり、何れも本年八残りなれば、名残惜かりきこと、感ず。

一月三十一日 午後から吹雪あり、晚餐ありて後、新聞及び雑誌の競売あり、結果左之如し。

北海タイムス 十六銭五厘 田口君

朝日新聞 十八銭五厘 坪坂君

太陽 十八銭 小熊君

実業之日本(一月一日)六銭五厘 根本君

" (一月十五日)六銭 工藤君

万朝報 十六銭五厘 根本君

国民雑誌 十一銭 茜君

午後九時より委員会を開き賄婦のことに關して議し、本日土木工科一年生鈴木源右工門君入舎し、食事なし。

二月一日 午後九時より石沢様来りて六号室にて舎生会を開き、婆やを換りのもの見つかるまで置くことを決議す。散会せる八十一時半なりき。

二月二日 本日から鈴木君一号室に小松原君と同室す。大原君十一号に一人分離す。但、鈴木君炭を使用するものと見慣す。長らく痔病のため退舎して居りし近藤君、昨日帰舎、本日から働く。

二月四日 晴天にして暖気なり、本日八節分にて豆撒きの当日なれども当舎にては此催なし。

二月五日 天気晴朗にして街道の積雪も解け初め恰も春の来るが如き心地する。日曜日のこととて外出するものも多少、午後から例の子供等来て喜々として廊下を馳け廻り居れり。

二月六日 昨日の天気も何所へやら、今日は朝から大吹雪だ。

二月十日 曇天なれども寒気なく春の心地せらる。明日八大祭日のこととて夕食後凡て外出して舎内頗る静肅なりき。

二月十一日 吹雪にして寒気甚だし。九時から学校に紀元節の拝賀式を挙行す。正午からは水産科の相撲大会あり、又撃剣部の大会などありき、相変らず外出者多く見受けられたり。

二月十四日 晴天にて暖気なり。目下東京大角力開催す、舎生も毎日、新聞見て批評とりどりなり。

札中五年生柄多五市郎君但し食事なし。

朝の寒気甚しき事近来稀に見る処なり、摂氏十九度（零下）なりき、十時頃から暖気も加はり晴天となれり、中食後委員会を開き、月次会及び中学生諸君之卒業記念之撮影に關して相談す。

二月二十日 朝来暖気にて午后に至り街道の雪も十分解け春の心地せらる、日も長くなり五時半頃まで八点火の要なし、実業之日本来らずとりに行く。

二月二十一日 土木工科三年生発地長太郎君入舎、二号室に、但し食事なし。田口君7号室に一人変更す。午後から同室の大掃除に加勢す。ピンポン台八図書〔室〕前の廊下二据付く。

二月二十三日 朝から大吹雪なり、然し、寒気甚しからず、二時頃にて終む。古火鉢を購入して七号室、十一号室及び五号室にて使用する。

午後六時より月次会を開く、当日委員工藤君、小松原君、石川君、管君なり、工藤君之開会辞あり、僕茜は努力に關して、佐藤君の三面記事を見て、豊島君同情に關して演説あり、丹治君は又簡單なる修養術につき滔々と説ぶ。次に三分間演説あり、題の奇抜な

る人をして絶倒せしめた。次の宮部先生の恩師なる米人に就き御説あり、茶菓及び夕食は牛飯の御馳走ありき、九時頃、先生は御帰なされたり、後投票あり、当選者次の如し

村長様向きの人	上杉君
美妻を持ちそうな人	工藤君
大食なる人	大原君
山師となりそうな人	管君
失恋しそうな人	丹治君

各人の滑稽なる実験談あり、名さしやりて散会せるは十一時半なりき、先生は相変わらず御寄附せらる、茲に感謝の意を表す。

二月二十六日 晴天にして暖気なり、午前十一時半武林写真館にて中学五年生諸君のため一同及先生と共に記念の撮影をなす。原板料二円五十銭なり、本日土木工科一年生奥間源蔵君入舎、但し、食事明日から。

二月廿七日 晴天なりき、夕食後新聞及び雑誌の競売を行ふ、結果左之如し。

万朝報	十四銭	管君
十七銭	朝日新聞	工藤君
十七銭	太陽(増刊)	工藤君
八銭	実業之日本	〃君
北海タイムス	十五銭五厘	田口君
七銭	国民雑誌	佐藤君
七銭	実業之日本	茜君

競売終了後直ちに三号室にて委員会を開き今月頃婆やの暇乞ひに対して許可する事を議決す。六時解散す。

二月二十八日 晴天なり、今日から新しき賄婦来りて婆やの指導をうく。写真原板料二円五十銭舎費から支払ひ且つ富貴堂に雑誌代を払ふ。

三月一日 午後五時頃から決算を行ひ八時終る。食費、舎費、文運費合して八円十一銭五厘、炭を用えたる人は八円八十五銭五厘なりき。

三月二日 夕食後賄婦長峰ハツ子殿退舎、舎生一同から各人三十銭及び舎費と合して贈金す、各室に暇乞ひして七時半退舎せり。

十余年間の住家を離るゝさぞ忍びざる所なりきならん。

三月三日 夜来の雨降りは変ずなれども暖く曇り居れば又降り出しならん雲行なりき。果して六時より雪降り始めぬ、台所では新しき賄家族が働いて居る。

三月四日 午後一時半より経学講堂にて世界徒歩旅行者蘭人の演説ありき、四時頃から雪降る。

三月五日 晴天なり。大通辺は雪も消えて青草出で道路も乾き初めたり、試験も近き来れる事とて、勉強盛んなり。

三月六日 札中五年生之試験本日から初まる、五時頃写真出来たり。荒川、大原、柄多諸

君に紀念のため一葉宛を贈る。八時頃、近藤君舎の改良政策と学僕を廃しこととなりしを以て退舎せらる。二カ年間の君が舎のために尽力せることを茲に謝す。一同玄關まで見送る。

三月七日 風雨あり。時々雪さえ交はりたり、道路の悪き事実に泥濘糊をとかしたるが如きとは此のことかと考へらる、本日宮部舎長に紀念写真一枚送る。

三月九日 本日水産二年及び林実科及本科以後の第二学期試験時間表発表となる、十八日から施行する由、但し水産二年生八十四日から、林実三年生八十五日から開始する由、何れも実習に行くため。

三月十日 天気晴朗なれ共、風は春の風なるため寒し。石川君眠られぬため九号室から分離して十二号室に陣取る。

三月十一日 本日から新刊の札幌毎日新聞当舎に寄贈す。丹治君本日から火鉢を始む。

春風寒けれ共晴天にして精神總會なり、十時半から経済学講堂に陸軍紀念日なるため永山中佐の二〇三高地の激戦に関する講話ありたり、石川君火鉢を始む。

三月十二日 日曜にして加ふるに近来稀なる快晴なり。且つ頗る暖く、植物園などを散歩する人多し。

三月十三日 曇天にして暖気なり。札中卒業試験も本日にて終り、喜々として夜のクラスメーテングに行く、然し外は、試験も近きため何れも大多忙だ、午後〇時半、委員会を開きて中学生諸君の送別会を十七日に開く事を決議せり。

三月十五日 昨日の天気も何所へやら、起き出で見れば、昨夜降りしものか、地は一面の銀世界と化す居たり、然し寒気甚だしからず、午後四時頃及び午前十時頃の降雪は尺寸をも弁ぜぬ程なりき、佐藤君本日も遠友夜学校に教鞭をとりに行く。試験は近きなるに遠路通ふことのいかに艱難なるか大に同情に堪へぬ。塚田君家に帰らる。

三月十六日 午後零時半から食堂に於て荒川、大原両君の送別会を開く、丹治君、小松原君及内田、上杉、工藤の諸君の送別の辞並びに今後に対する希望を述べ、両君の謝辞ありて、二時散会せり、同にて茶菓の御馳走あり、外に昼飯にも御馳走ありき。

丹治君の母上危篤の報に接す、今夜帰国せらる。

三月十八日 朝以来降り出すたる雪は積む事夕方に至りて五寸余に達す。寒気なし、本日から本科以外各科の第二学期試験開始せらる。

丹治君の不在中、内田君副舎長代理す。

三月十九日 暖気なれど降雪あり。丹治君に母上見舞の手紙を出す、管君実習のため午後十時、東京に出発す。

同君留守中、高橋君食事員代理す、柄多君今夜帰舎せらる、但し食事なし。

三月二十日 降雪ありて稍々寒気あり。一時半、大原純吉君卒業退舎して帰省せらる。

三月二十一日 曇天にして時々降雪あれども寒気なし。丹治君から舎生に手紙ありたり、内田君と共に来る廿五日月次会を開く事を決議す。

明日は春季皇霊祭にて試験も中止さるゝことゝなる、よりにて夕方各室にて軍歌の声盛に

起す、然し六時半になれば相変わらず静かなり、之れが我が舎の特色か？

三月廿二日 春季皇靈祭にて休み。朝から晴れ渡りて心地よし。彼岸中日なりとて餅搗きを執行す、高橋君、荒川君、篠塚君等大に尽力せり、昼飯の時之れにて舌たゝみを打ち、然し、日頃の元気なる諸兄も試験のため元気衰えたるか大分減りたる様子なりき、小熊君十時の汽車にて実習のため青森方面に向けて出発せり。

三月二十五日 本日にて第二学期試験も終了せり、夕食にはすし及び卵の吸物などの御馳走あり、六時半から月次会を兼ねて近藤君の送別会をなす。

篠塚の開会の辞並に近藤君に対する送別之辞次きて内田の同君に対する感謝の辞あり、次に近藤君の謝辞あり、先生の送別の言葉及び丹治君の御母さん死亡せることを報ず、並に弔詞を述べ。茶菓の饗あり、次に委員の改選あり、結果左之如し。

#### 常務委員

七票	坪坂君
五票	上杉君
〃	野沢君
〃	高橋君
運動部委員	佐藤君
園芸部委員	篠塚君

八時頃石沢様来会せらる、余興に移り、興を尽して散会せしは十一時半なりき、賄家族一同先生に面会す。当日の委員左の如し。

篠塚君	根本君
野沢君	高橋君

柄多君食事なし（多分帰家せるならん）

三月二十六日 快晴にして本日から休業なれば散歩などに出る人多くして舎内静かなり、柄多君食事なし、荒川君二時帰省、同時に退舎せらる、一同停車場に見送る。

三月二十七日 晴天なり、石川君火鉢止む。夜、夏目氏著の門を購ふ、柄多君帰舎、但し食事なし。

三月廿八日 晴天なり、上杉君定山溪温泉に、坪坂君忍路実験所に出発す、共に食事なし。

三月廿九日 午前九時頃まで頗る晴天なりき、十時より風力増す来りて塵埃を飛散す、全都煙の如く暗く果ては雨雪を混じるに至れり、三時より決算をなす、安価にして、尤高七円九十銭なりき、晚餐後競売を開く

国民雑誌	九銭	発地君
太陽	二十二銭五厘	発地君
実業之日本	六銭	発地君
朝日新聞	二十銭五厘	〃
万朝報	十五銭五厘	茜君
タイムス	十六銭	内田君

実業之日本 九銭五厘 根本君

合計九十九銭也

三月三十日 朝丹治君に手紙を出す、丹治君から甲電の礼状が来る。午後二時篠塚君、真駒内に出発す、午後十時、鈴木君退舎帰省せらる、内田君昨日迄にて炭を止め、今日からストーブを炊く。

三月卅一日 昨夜から降り出したる雪は、今日になりても止まず、一面に再び銀世界を現出するに至れり、高橋君、石川君火鉢を始む。

四月二日 快晴なれど風寒し、上杉君午後七時頃定山溪より帰舎せらる、食事なし。

四月三日 神武天皇祭にして晴天と来て居るから外出者頗る多い、午後一時から中央創成小学校にて青年会主催にて基督青年寄宿舍の基本財産を作るため及びモルガン氏の送別を兼ね音楽会を開く、大入りなりき、然し面白くなく何れも不平満々らしかりき、大隈伯主宰の新刊、新日本を買ふ。

四月四日 朝来どんよりてとした日だ、時々春雨しをしをと降りて時々晴る。植物園の草も大分青くなったようだ、運動部委員は休暇中未だ一度もテニスをやる事出来ぬとて不平を云ふて居る。

四月五日 好天気なり、午前十時頃田口君余市に旅行のため出発せり、夕方から植物園で予科生のランニング練習せるを見る。

四月六日 快晴なりされど、東北地方代暴風雨の余波を受けてか風強く且つ寒し。午後からテニスコート修理にかゝり、一同大難儀をなす、出来〔上〕りたるは三時頃なりき。

四月七日 昨日来の強風未だやまず、賄の亀之助君、道庁の出張所たる野幌に出勤の目的にて十一時頃出発す。午後七時風止む。休みも今日限りだ、東北線不通のため未着なりし東京新聞五時配達になる、坪坂、田口の両君九時頃帰舎、共に食事なし。

四月八日 好天気なり、午前六時半ごろ、丹治君帰舎、今日から学校始まる。午後からテニス盛んなりき。

四月九日 午後から室替を執行す、左の如し

第一号室 根本、柄多両君 第二号 菅君 第三号 小熊、高橋両君 第四号 篠塚君  
第五号 豊崎、茜両君 第六号 工藤、奥間両君 第七号 発地、上杉両君 第八号 坪坂、佐藤両君 第九号 小松原、田口両君、 第十号 野沢、石川両君、第十一号 内田君

本日にて文芸部の事務を野沢君に引き渡す事となれり、君幸余が之れまでの欠を補へ下さらバ幸甚の至りなり。

四月同日 本日茜君より文芸部委員之事務を引受く、午後篠塚君帰舎せらる。奥間君炭を止メラル。

四月十日 朝より之雨も昼頃になり止みしも又黄昏に至り降り出しぬ。何んとなく北海の春も色めきたる心地す。

本日炭を止められし者は、小松原及佐藤君、僕の室なり、内田君には、ストーブを止め



られて本日より炭を用へらる。当舎におられし鈴木君より無事帰国の報知に接す。

四月十一日 曇天なり、午後予科生徒のランニング練習を見る。夜に至り十二日よりのオルガン番日割表をつくる。

四月十二日 晴天なり、高橋君本日より炭を止めらる。実習地苫小牧に居らる、小熊君より、信あり。来月五日頃帰札の予定の由。

四月廿日 朝程より曇天なりしも正午頃には日光輝き初めしが午後三時頃より風漸く激しく、何となく物凄き光景なり。本日小松原君及び篠塚君には区役所に於て徴兵検査を受けらる、両君とも丙種合格の由。

四月廿一日 朝より雨降る。本日特に篠塚君より適令祝とて夕食に汁粉を馳走せらる。

四月廿二日 好天気なり、小松原君は本日より炭を用ひらる、豊嶋君は炭を止めらる。

四月廿五日 晴天なり、小松原君には、炭を止めらる。

四月廿八日 好天気なり、本日四月分タイムス、朝日及万朝の代を払ふ、午後八時より七号室に於て決算をなす、非常に安価なりき、諸新聞四月分之支払をなす、河島北海道長官薨去せらる。

四月廿九日 快晴なり、午後七時より月次会開かる。先づ内田君委員を代表して簡短に開会之辞を述べらる、続いて、鉄道と題し、鉄道之意義より説かれ、世界に於ける鉄道の状況に及び終に我が日本広軌鉄論に至り自分の意見を述べらる、次に発地君のおもしろき説話あり、次に篠塚君には例の雄弁を以て人生問題を論ぜらる。次に石川君の道路と国家と題し、道路と国家の関係を明にせらる。終りに奥間君及丹治の修養に関する演説あり、直に茶話会に移らる、閉会せしは、十一時なりき、因に当夜、宮部先生には他に用事有之此の会に望〔臨〕ませられず、尚ほ石沢先生にも相見え申さず、誠に残念の至りなりき、当日の委員は左の四名なりき。

内田君、豊嶋君、田口君、坪坂君

四月卅日 晴天なり、本日春季大掃除をなす。

五月三日 晴天、本日午後菅君帰舎せらる、食事なし。

五月五日 昨夜より少しく寒さを感じ、昨日は終日雨降りしも本日は実に好天気となれり。農科大学二於ては明日の運動会準備之為め各科共休みなり、屢らく実習地におられし林科三年の小熊君には、本日午後二時帰舎せられたり、食事ありたり。

五月六日 朝来の好日和、農大遊戯会開かる。流石は本道に於ける代表的遊戯会のこととして同校方面は朝より景気附ひて開会時刻頃は正門より詰掛くる見物人引きも切らざりき、中学程度の選手競争に於ては又もや小樽水産の佐々木政清君一着を占む、尚ほ各科選手競争に於ては土木工学科栗原末雄君一着を占めらる。

五月七日 快晴なり、昨日運動会の為、今朝は朝寝する諸君も見受けられたり。

五月八日 晴天、農大に於ては特に本月は休業なり、近来好天気のみ続きし為めか円山の桜も少しく咲き初めて昨今は観桜の人々円山に向ふあり。

五月九日 まれなる快晴なり、本日午後円山に遊ぶ。観桜の人非常に多く、中には団体に

て花見せるありき。

五月十日 晴天なり、札幌郡琴似村附近に山火ありて焼失区域は頗る広き由なり。

五月十一日 本日晴天なりしも風強し。山火ありし為にや午后に至り札幌近辺には灰降り。

五月十二日 昨日来の風尚ほ止まず、一昨日来の山火は一度鎮火せられしが野火は昨日の強風にて又々燃ひ上り、本日も尚ほ、円山方面の円に燃へおる由にて日光薄暗く時々灰を降せり、此頃は諸所火事あり、実に注意すべきは火なり。

五月十三日 北風已に北州を辞し、桜花爛漫黄花野を彩り、空に告天子鳴き、蝶は遠近に飛び、連山は今や翠色満たらんとせる臯月十三日我が舎は当区敷島倶楽部と午後二時半より我がグラウンドニ於て庭球の試合を催す。

我が選手共同一致能く彼と戦ひ、遂に我が舎の大勝となる、之れ我が舎の名誉に非ずして何んぞ、因に当日各組の勝敗は、左之如し。

(我が舎) (敷島倶楽部)

豊嶋君 金山君

野沢君 戸野君

坪坂君 梅田君

内田君 桑折君

根本君 渡辺君

佐藤君 種田君

工藤君 中川君

赤根君 西君

管君 小野君

小熊君 福山君

上杉君 多田君

丹治君 中村君

右中、特筆大書すべき事あり、そは我が勇士茜、工藤の両君意気天をつくの勢を以て敵と戦ひ彼の心胆を寒からしめ、優待になりし事なりとす、次に我が軍の副将たりし抜群の二勇士小熊君及管君流石の彼の英傑も之れに応戦、善戦して勝を得ざりしも真なるかな。試合後、本日は特に運動部より茶菓の馳走あり。

五時半、太陽は西に傾き、万山紫色に、一天黄色を帯ぶるとき、芽出度閉会となりぬ。

五月十四日 好天気なり、午後中島遊園地に於て札幌銀行会社の運動会を見る。

五月十七日 晴天 農学校に於て本日午前十一時より同図書館内に於て東北帝国大学総長沢柳政太郎氏の新任式并二同氏之学生生徒に対する訓示ありたり、午後小樽大火の号外に接す。

五月十八日 晴天

五月十九日 晴天 本日太陽臨時増刊新法令着す。

五月廿日 晴天

五月廿三日 曇天 午後三時頃夕立あり。初めて雷鳴を聞く。

五月廿四日 昨夕来より引続き曇天にて正后より小雨降りしが、夕方に至りて晴れぬ。

本日午后民声社へ五月分ノ新聞代を支払ひたり。

五月 日 昨夜暖雨、今朝新晴、本日午後五時半植物園に於て卒業生諸君の記念撮影をなす、引き続き同七時半より例により卒業生せらるゝ諸君の送別を兼ねて月次会を開かる。当夜、宮部先生には多忙なる御身にもかゝらず、会に臨まれしは実に難有事なり、石沢先生には、止むをいざる用事の為め臨ませられざりき、当夜は近頃まれなる盛会なりき、因に此度卒業せらるゝ諸君は内田君、小松原君、小熊君、篠塚君、石川君、発地君之六名なり、当日の委員は左の通り。

上杉君、管君、柄多君、赤根君

五月廿八日 朝よりの朝も黄昏に至りて跡なく霽れぬ。本日佐藤君、田口君、小熊君之三名は魚釣りに行かれぬ。

五月二十九日 快晴 風暖し、始めて蛙声を聞く。

五月卅日 晴天、午後六時より坪坂君の室に於て本月分決算をなす、結果は先月と大差なく、最低六円七拾八銭五厘、最高が八円七銭なりき

五月卅一日 晴天 暖気強し、朝夕の風いと心地よし。本日、福岡実業団来札せらる。

夕食後新聞雑誌の競売をなす、其結果左之如し。

北海タイムス 拾七銭 発地君

萬朝報 拾六銭五厘 佐藤君

朝日 貳拾参銭 工藤君

実業〔之〕日本(5.1) 篠塚君 (六銭)

同 (5.15) 七銭 発地君

太陽 拾五銭五厘 坪坂君

太陽臨時増刊 拾九銭 管君

六月二日 鬱陶たる天気、午後遂に雨となる、本日竹林より写真二枚出来す。

六月三日 晴天なり、午后十一時頃北二条東二丁目辺に火事あり、本日富貴堂より太陽着す。

六月九日 今夕、小熊君退舎せらる、君八三年前に林学科に入学して、来札せらるゝや、我が舎に入舎せられ、色々舎の為め尽力され、温厚能く吾が舎「平和之源泉」たりき、今や去る惜むべし。

六月十三日 晴天

六月十五日 田口君二は病氣の為区立病院へ入院せらる。

六月 晴天 農学校の学年試験結了ス

本夕、月次会あり、宮部先生及石沢先生には孰れも多忙の為め、会に臨ませられざりき、当夜は、篠塚君、小松原君、内田君、発地君及、丹治君之演説ありたり。

委員は次の如し。

高橋君（工藤君ノ代理）、奥間君、根本君、野沢君

六月二十九日 雨天にして、少しく寒気を帯ぶ。

六月卅日 快晴 茜君は実習地に赴かる。

七月一日 全快晴、豊嶋君測量実習に赴かる。

七月二日 本日、小松原君及内田君には、帰省せらる。

内田兄二は三ヶ年の永き間、本舎に在舎せられ、種々御尽力せられしが、殊二度々副舎長代理として其任を全うせる事ありしが今回芽出度卒業し錦衣帰国の身となられたり、今後は京都工科大学ニ大学生生活を続け学理の研究に迎〔向〕ふなり。

小松原君八再び札幌の人となりて学窓ニ研鑽せる処を社会に出でて応用さるゝとの事。

七月三日 今夜十時発にて根本君帰省せらる、楽しき再会の日まで神共ニおぼましてさきくあれ。

七月五日 昼ニ野沢君が昆布駅ニ実習ニ向はる。

夕刻ニ奥間君が手宮駅ニ実習ニ向はる。

両君共学窓ニ研究せる所を実地ニ見聞して、其知識を確実にし、応用の才を養はれん事を。

七月六日 豊嶋君、四日夜帰舎（食事なし）

六日朝（食事なく）又実習地に帰らる。

実習地諸君の各宛

茜君 渡島国忍路郡農大忍路臨海実習所

奥間君 渡島国手宮鉄道合宿所

野沢君 渡島国昆布駅

豊嶋君 石狩国札幌郡篠路兵村ニ番地道庁測量員出張所

七月七日 高橋君実習ニ行く。

石狩国空知郡北村字樺戸道路中小屋福島義重方。

七月八日 菅君今朝八時発にて小樽ニ向ハル、実習船忍路丸にて樺太西海岸にて漁業実習との事。根拠地は真岡港との事。

手紙八

真岡郵便局留メ〔此の一行線引き削除〕

坪坂君朝出発、海路帰宅（富山県）後東京にて実習し八月末帰札の予定

今夜十時廿分発にて石川君出発、錦衣帰国の身とならる、三年間の倦むなき勉強の程、舎の範たり、社会に出で、も 大ニ手腕を振はれん事を。

本日十時より卒業式挙行せらる。

吾舎の卒業生諸君八

農実篠塚君（六番） 林実小熊君（七番）

工小松原君（一番） 工内田君（四番）

工石川君（十番） 工発地君（十一番）

他の舎生成績八

予一上杉君（四八） 予一大貫（四）

林一根本君（九） 工一野沢（一〇）

工一高橋（二） 工一奥間君（五）

工一豊島（一六） 水二管 君（五）

水二坪坂君（七） 水一茜 君（六）

田口君病氣にて追試験。

福原専門部局長（文部大臣代理）銀時計を優等卒業生三名に授けらる。

沢柳総長の演説もありたり。

七月九日 朝九時半にて上杉君、工藤君出発帰省せらる。上杉君八〔以下記入なし〕

篠塚君今夜十時十五分発にて帰国せらる。

兄の在舎三年の間の御尽力を謝し、特に園芸委員として又、賄婦の事に関して深謝す、東京深川日本人造肥料会社に聘せらる。

七月十日 朝一昨夜（八日）深夜茜君忍路実験所ヨリ帰られ、本日九時半発にて帰省。

七月十日 今夜九時頃発地君退舎せらる、十時出発とき、皆で見送り二行きし二来て居らず、多分呑気の君八遅刻して居るだらう、日々舎も淋しさ増して現在舎生四名のみ、柄多、佐藤、田口、丹治。

七月十六日 田口君、今夜十時十五分発にて帰国せらる、病体未だ全く癒せず、途中の無事を祈り、来秋の健康を得て帰られん事を!!

七月十八日 佐藤実習二行カル。食事八昨晚限りナリ、舎八二人トナツタ。

旭川曙町一丁目田中木工場

上杉君ノ住所八

後志国磯谷郡南尻別村上目名七十五 田下農場

七月廿九日 高橋君河川測量ヨリ帰舎せらる、父上様御病氣にて帰国の由なり、君よ遠き父の下二行き、力の限り看病して帰られん事を、食事八今夜より。

七月卅日 高橋君夜食致、四時五十分の汽車にて帰国の途に就かる。

七月卅日 小松原君、今朝五時着札にて帰舎せられたり、淋しき折りに再会の殊に嬉しき。

八月一日 上杉君本日午後実習ヨリ帰舎せらる。

八月三日 小松原君二は本日辞令下り、函館在勤を命ぜられたりと、失望して居られたり。

八月九日 朝、野沢君帰舎。

八月十一日 野沢君朝出発、帰省セラル。

八月十四日 朝、丹治君出発、旅行セラル。

八月十三日 柄多君外泊せらる。

八月十五日 奥間君晩帰舎、十六日朝八時出発セラル。

八月十七日 管君実習より帰舎。十八日より食事、客膳夜一人。  
八月廿四日 管君の客様三人晩食。  
八月廿九日 管君の客膳、昼食一人。  
八月廿七日 豊島君実習より帰舎、中夜食し、晩食二客膳一人。  
八月卅一日 豊島君旭川二出発、ただし食事なさず。  
八月廿九日 田口君、佐藤君帰舎。ただし食事は卅日よりなす。  
八月卅一日 晩、奥間君帰舎。舎より実習に針うす〔張碓〕ニ出らるゝ事となる、但し食事八一日より。  
九月二日 夕方丹治君本道旅行より帰舎、但し、食事八三日より。  
九月四日 坪坂君今朝帰舎せらる。  
九月五日 田口君本月中、文芸部委員を命ぜらる。  
本日農学実家一年安井勉君入舎す。但し食事は本日よりなす。  
九月 本日朝水産学科一年今田東一君及び土木工学科一年中川亮治君入舎す。ただし食事は本日よりなす。  
夜、図書室にて観月の宴を催す。但し、曇天にて月は見えず、煮たる玉蜀黍、枝豆の御馳走があった。  
九月九日 野沢静男君帰舎せらる、但し食事は明日よりなす。  
九月十日 朝、根本浩三君帰舎せらる。但し、食事は、今日よりなす。  
早朝奥間君室蘭方面へ旅行せらる、但し、食事は昨日限り。  
夜、柄多君下宿より復舎せらる、但し、食事は明日よりなす。  
又、豊島君旅行より帰舎せらる、但し、食事も又明日よりなす。  
九月十一日 本日田口君より文芸部委員を引次ぐ。  
上杉君帰舎せらる、但し、食事も本日よりなす。石沢正夫君入舎せらる、食事は十一日より。  
九月十二日 好天気なり、予科二年之林吉夫君入舎せらる。  
九月十四日 午後工藤君帰舎せらる、食事は明日よりなり。  
九月十七日 奥門君は一週間程北海道を旅行せられしが、本日午後無事帰舎せられたり、尚ほ食事は明十八日よりなり。  
九月廿二日 本日坪坂君には修学旅行に赴かる。  
夕食後、新聞の競売をなす、其結果左之通り。  
タイムス(七八) 七銭五厘 管君  
朝日(七八) 十五銭 林君  
タイムス(九) 十三銭 丹治君  
万朝 七銭 野沢  
九月廿三日 本日夜、新入生諸君之歓迎会を兼ねて月次会を開かる、高橋君歓迎之辞を述べらる、当夜は特に舎長宮部博士及び嘗て当舎に永く寄宿せられし農学土工藤氏之有益

なる話あり、当夜は近頃は無き盛会なりき、閉会せられしは、十一時頃なりき。  
因に当夜の委員は、工藤君、佐藤君、豊嶋君、田口君の四名なり、次に当夜委員改選し、  
結果を挙ぐれば左之如し。

食事委員	根本君
会計委員	茜 君
文芸部委員	奥門君
衛生部委員	豊嶋君
運動部委員	管 君

九月廿六日 晴天 今朝副舎長丹治君には修学旅行に赴かる

本日午後、坪坂君帰舎せらる、食事は明日よりなり。

九月卅日 本日文芸部之事務を奥門君に引渡す。

本日富貴堂ヨリ九月分実業日本ノ代十一銭支払う(上杉君昼客膳一人前取ラル)

本日午後ヨリ水産科ノ角力アル可キモ雨天ノ為メ延期セリ、大雨数時間降り続キタリ。

十月一日 本日夕食後、新聞雑誌ノ競売ヲナス、其結果左ノ如シ。

(七月分) 実日	三銭五厘	赤根君
(九月分) 実日	五銭	高橋君
(十月分) 万朝	十三銭	高橋君
(十月分) タイムス	十二銭	野沢君
(十月分) 朝日	十五銭	石沢君

十月二日 本日、丹治君修学旅行ヨリ無事帰宿セラル。

九月分ノ食費計算米代騰貴ノ為メ会費高クナル。

石沢半治君ヨリ左ノ本寄附セラル。

THE GOSPEL O LIFE (IVAGNER)

十月三日 終日雨天ナリキ、外出者少ナシ。

十月分(一日) 実業ノ日本来ル

十月四日 新聞代ヲ支払フ。

九月分文芸部会費受ケ取。

工藤君昼客膳取ラル(水産科三年辻義一入舎、食事八明日ヨリ)

十月五日 本日田口君忍路ニ旅行ニ行ク、食事八昨日限り。

柄多君夕食客膳一人前取ラル。

十月 本日八寄宿舎一同定山溪遠足会アリ、丹治君八朝早く出発ス、先発隊トシテ工藤君、赤根君、奥間君三名十一時半頃出発ス、後発退トシテ柄多君、寛〔管〕君、今田君、林君、安井君午後一時出発ス、先発隊八五時過ぎ到着、夕食ノ用意中本隊モ七時過ぎ到着セリ、夕飯後色々ノ余興アリ、十一時過ぎ一同就眠ス。

此日食料品トシテ各携帯セルハ左ノ如シ

米 八合

竿〔芋〕六ツ

玉葱 八ツ

十月八日 一同五時過ぎ起床、工藤君、林君、柄〔多〕君ノ三名ハ先発隊トシテ九時四十分出發ス、残り八午后一時出發ス。

雨降り初メ石山ニ至ルモ尚止マズ、大雨を冒シテ猛進セリ、二日ノ三傑ハ柄多、工藤、丹治君ナリ、米ハ一人分八合ニテ余分ナリキ、今後八七合カ六合程ニテ十分ナリ。

十月九日 野沢君本日夕食後退舎セラル。食事ハ本日限り。

田口君忍路ヨリ帰ル、食事ハ明日ヨリノコト。

佐藤君、安井君火鉢ヲ用ヒラルコト。

十月十日 本日札幌中学四年生戸野博君入舎セラル、但シ食事ハ十一日ヨリ。

十月十一日 大学文武会ニテ新入生ノ歓迎会ヲ真駒内牧場ニ開ク、当寄宿舍ヨリ五六人出席シ皆無事帰着ス。

十月十二日 本日管君石狩地方へ修学旅行ヲセラル、食事本日マデ(高橋君客膳二ツ取ル)

十月十三日 管君石狩ヨリ帰宿セラル。

十月十四日 本日午後ヨリ室替アリ、其組合セ左ノ如シ

一号室 佐藤君 八号室 田口君

中川君 戸野君

二号室 高橋君 九号室 豊島君

北村君 柄田君

三号室 上杉君 十号室 根本君

安井君 石沢君

四号室 工藤君 十一号室 坪坂君

茜君 林君

五号室 奥門君

辻君

六号室 管君

今田君

十月十五日 今田君昼客膳一ツ取ル。

予科一年生北村卓爾君入舎セラル、但シ食事ハ明日ヨリ。

十月十六日 実業日本秋季臨時増刊来ル。

十月十七日 予科一年小瀬伊俊入舎、食事今日ヨリ。

全 一年中原尚儀入舎、食事明日ヨリ。

十月十八日 終日雨天ニテ外出スル人少ナカリキ。

十月十九日 本日第七師団月寒方向ニ機動演習アリ、之ヲ見ル為大学ヨリノ命令通り午前二時半マデ豊平橋ニ集合スル為メ舎生一同二時頃起床各握飯二ケツ、ヲ携ヘ二時半頃舎



ヲ出デ豊平橋ニ着セシ八三時頃ナリキ、四時頃隊伍ヲ整ヘ月寒聯隊ヨリ約半里程ニテ会戦ヲ打ツ、十時頃戦酣ナリキ、十時過ギ戦終リ一同無事十一時過ギ帰宅ス。

本日十五日分実〔業ノ日〕本来ル。

本日、紀念式ノ事ニツキ委員会アリ。

十月 本日午後二時ヨリテニスノ試合アリ、其番組及ビ勝敗ヲ示セバ次ギノ如シ

東方	西方
1 林 君	1 石沢君
今田君	田口君
2 今田君	2 小瀬君
高橋君	石沢君
3 茜 君	3 北村君
辻 君	奥門君
4 上杉君	4 坪坂君
中川君	豊島君
5 丹治君 副将	5 工藤君 副将
中川君	豊島君
6 管 君 大将	6 佐藤君 大将
根本君	中原君

当日ノ優待者八左ノ如シ

今田組、上杉組、丹治組

十月廿四日 石沢君本日自家ニ宿泊セラレタリ。

十月廿七日 本日水産科兎狩アリ

根本君実習出掛タリ

十月廿八日 本日根本君実習ヨリ帰ル

本日水産科遠藤博士ノ送別会ヲ開キタリ。

十月廿九日 新聞代九拾八錢支払フ。

本日夕食後、紀念式に歌ふ唱歌ノ練習ヲナシタリ。

石沢君帰宿セラル、食事明日ヨリ。

十月卅日 夕食後新聞雑誌ノ競争売ヲナシタリ、其結果左ノ如シ。

萬朝	十四錢	佐藤君
朝日	十七錢	豊島君
タイムス	十八錢	丹治君
実日一日(十月分)	五錢五厘	豊島君
全 十五日(十月分)	五錢五厘	管 君
太陽(十月分)	十五錢	佐藤君
実日臨時増刊	十四錢五厘	小瀬君

十一月二日 来ル紀念会ニ出席スベキ決定セル人々ハ左ノ如シ

宮部先生 夫婦

石沢 様 夫婦

森本厚吉

田中 稔

森 広

工藤蔵之助

竹田氏ヨリ菓子代金一円寄贈セラル。

札幌の外ノ人ハ一人モ出席スベキ旨申込ミナシ。

十一月三日 本日ハ恐レ多クモ聖上陛下ノ第六十一回ノ降誕ノ佳日ナリ、大学ニ於テ八午  
前九時ヨリ図書館ニ於テ式挙行アリ。

昼食ハ「はぎもち」ノ馳走アリ。

十一月 日 土曜日 快晴 第十三回創立紀念〔会〕ヲ開催ス。当日ノ来賓左ノ如シ。

宮部先生 夫婦

石沢氏、森氏、森本先生、工藤君、石津君

当日ノ委員左ノ如シ

庶務係

奥門君（主任）、丹治君

接待係

上杉君（主任）、丹治君、佐藤君、奥門君兼

会計係

茜 君

会場係

坪坂君（主任）、豊島君、安井君、戸野君、柄多君（兼）、中川君（兼）、中原君（兼）

食事係

高橋君（主任）、根本君、工藤君、田口君、石沢君、北村君、豊島君（兼）

余興係

管君（主任）、今田君、中川君、林君、柄田君、小瀬君、中原君、辻君、上杉君（兼）、  
佐藤君（兼）、工藤君（兼）、茜君（兼）

会場ノ模様ヲ記セバ、正面ニ美額ヲ掛ケ、左手ニ柄多君ノ手ニナル宮部舎長ノ肖像画ヲ  
掛ケラレタリ、四方ハ天幕ヲ張り、入口ニ Panachee ノ額アリ、各国旗ヲ以テ天文〔井〕  
ヲ飾リタリ。

六時半一同食卓ニツキテ中途ニテ宮部舎長用事アリテ出ラル、食事終リテ暫時休憩ノ後  
二式ヲ初メタリ。

第一丹治君ノ開会ノ辞アリ、次文芸部ノ報告、会計ノ報告アリ、之二次ギ舎費ノ報告ア  
リ、次ニ上杉君ノ歓迎ノ辞、次ギニ丹治君ノ祝辞アリ、次ニ森氏ハ用事アリテ出場セラ

レタリ、石津、森本、石沢氏ヨリソレゾレ有益ナル講話アリ、次ギニ祝歌ヲ歌ハントスルヤ宮部先生御歸舎セラレタリ、祝歌終リテ丹治君ノ発声ニテ宮部舎長ノ萬歳ヲ三唱ス引續キ余興ニ遷ル。

余興ノ番附左ノ如シ

- 一、福引
- 二、薩摩琵琶 豊島君
- 三、マグネットノ神 有志
- 四、劍舞 柄田君
- 五、不具者ノ失敗（茶番） 有志
- 六、千里眼 坪坂君
- 七、ベコベコ大学 有志
- 八、滑稽舞踏 辻君
- 九、信農〔濃〕ノ 高橋君
- 十、百人相 有志
- 十一、大望（旧劇） 有志

全ク余興ノ終リタル十一時過ギ丹治君閉会ノ辞ヲノベ、宮部先生ノ発声ニテ青年寄宿舍萬歳ヲ三唱シテ会ヲ閉ヂタリ。

十一月八日 坪坂君ノ室、本日ヨリ炭ヲタク。

十一月九日 奥門君ノ室、本日ヨリ炭ヲタク。

十一月十日 根本君、佐藤君本日ヨリ炭ヲタク。

本日夕食後雪降りテ大凡二三寸積ミタリ。

本年度ノ初メテ積ミタル雪ナリ。

十一月 新渡戸稲造先生著修養ノ本ヲ富貴堂ニテ買フ、代金一円六拾五銭。

十一月十四日 豊島君ノ室、炭ヲ用ヒラル、本日八雪降りテ外出スル人少ナシ。

十一月十五日 安井君本日退舎、食事八本日マデ。

十一月十九日 土木工科二学年守屋君入舎、但シ食事八明日ヨリ。

豊島君火鉢ヲ止メタリ。

十一月廿六日 本日午前八時舎生一同新聞雑誌縦覧室ニテ一般之注意事項ヲ副舎長ヨリナサレタリ。

十一月廿七日 辻君ト今田君、宿換ヘヲナシタリ。

十一月廿九日 予科一年中原君退舎セラル。今日食事アリ。

十二月一日 根本ノ室、炭ヲ止メタリ。

十二月二日 新聞雑誌及其他ノ書類競売ニ附シタリ、其結果次ノ如シ。

万朝	十銭	中川君
朝日	十五銭	管君
北海タイムス	十一銭	豊島君

実業日本（一日）	五銭	全人
全（十五）	五銭	全人
太陽	九銭	赤根君
増刊	十六銭	柄多君

本日、安井君入舎、但シ食事八本日ヨリ。  
 本日本競売ノ結果左ノ如シ。

少女世界（十二冊）	十一銭	辻君
冒険探検世界六冊	五銭	豊島君
作物養蚕論	八銭	丹治君
林学会報	五銭	佐藤君
太陽	十六銭	辻君

十二月五日 景品競売ヲナス。其結果左ノ如シ。

状袋 二帖	一銭五厘	辻君
エ八ガキ二枚	一銭五厘	田口君
ノート 二帖	三銭	辻君

上杉君ノ室、本日ヨリ炭ヲ用ヒラル。

十二月八日 高橋君ノ室、炭ヲ用ヒル。

十二月九日 赤根君本日退舎、食事今日マデ。

十二月十一日 佐藤君火鉢ヲ止メラル。

十二月二十日 坪坂君千歳ノ方へ実習ニ出掛ケタリ、食事昨日限り。

十二月廿一日 第一学期ノ学期試験終リタリ。

十二月廿二日 石沢君外泊セラル、食事八廿一日限り。

十二月 日 工藤、小瀬君帰省セラル、食事本日マデアリ。

豊島君旭川へ旅行セラル。

本日月次会ヲ開ク、当日ノ委員左ノ如シ。

上杉君	安井君
辻君	戸野君

七時頃ヨリ開会シ、上杉君開会ノ辞ヲ述ベラル、次ギニ辻君ノ入舎以来ノ感想ニ付キ述ベラル、次ギニ林君、浜口五平ノ多クノ人命ヲ救ヒシコトヲ談ズ、副舎長丹治君立チテ過去一ヶ年ノ感想ヲ談セラル、次ギニ舎長宮部先生登壇セラレテ多クノ誘惑ト云フモノ八休ミニ起リ易キヲ以テ注意セラレタキコト、及ビ友情ニ付キ色々ノ有益ナル教訓ヲ垂レラル、斯ノ如ク舎生一同ヲ赤子ノ如ク御思召サレ、深く御心ヲ注ギ下サル、事ニ付、一同感泣セリ。

次ギニ委員ノ改選ヲナシタリ。左ノ如シ。

常務委員

林 君            田口君

辻 君            佐藤君

運動部委員

上杉君

色々遊戯ヲナシ、散会セシ八十一時半ナリキ。

十二月廿四日 田口君忍路ニ実習ニ出掛ケラル、食事昨日限り。

十二月廿五日 管君本日忍路へ実習ニ出掛ケラル、食事八本日マデ。

十二月廿六日 坪坂君本日午後六時頃実習ヨリ帰舎セラル、但シ食事八明日ヨリ。

十二月廿九日 豊島君、旭川ヨリ帰ル。

十二月卅日 豊島君帰省セラル、但シ食事八本日一日間。

予科二年生矢田貝君入舎、但シ食事八明日ヨリ。

十二月卅一日 四十四年も今日限りとなった、新年や冥途の旅の一里塚なんて老人臭い事を云ふのはよして、楽しく、嬉しく四十五年の春を迎へよー、今年は本舎ニ取り、さして不幸なこともなく、無事平和ニ送ることを得たのは幸である。

目出度々々々々々々

宮部舎長萬歳々々々々

青年寄宿舍萬歳々々々々